

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）

事業名(主)	フードくじら
事業名(副)	

※任意  
入力数 主 7 字 副 0 字

実行団体名	学習支援ひろば「くじら寺子屋」
資金分配団体名	一般社団法人全国食支援活動協力会

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_10.人や国の不平等をなくそう

実施時期	2021/6/1 ~ 2022/2/1	事業対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 (那覇市、宜野湾市、沖縄市、うるま市、名護市、宜野座村)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	一人親家庭、多子家庭(※4人以上)、コロナの影響をうけ困窮している家庭、不登校や発達障害など問題を抱えている家庭、学習に困難を抱えている児童がいる家庭など ※沖縄では兄弟が3人いることが多いので4人とした。子どもの居場所などの子供支援をしている団体への支援(5か所以上)※実際に現場を見て決定。	事業対象者人数	1200名程度
------	---------------------	--------	--	---------------------------------------	--	---------	---------

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的 (200字以内)
<p>子供達がいつでも誰でも自分の意志で利用できる子どもの居場所である。貧困対策の事業所ではあるが子供達の中に差別や壁を作らないため制限はしない。</p> <p>毎日の宿題をすることで自己肯定感を育む。</p> <p>勉強することで将来への希望を生み、貧困の連鎖を断ち切る一助となれるようサポートする。</p> <p>日々の交流で地域に困った時にSOSを言える大人がいるという場所をつくる。</p> <p>軽食やおやつ、食糧の提供をし、支援する。</p>
(2)団体の概要・事業内容等 (200字以内)
<p>学習支援を中心の子どもの居場所を実施。年間登録者約150人、年間利用者数約6500名。平日毎日実施。学習支援は、宿題中心。中学生の受験対策。おやつと軽食の提供有。臨時休校・振替休校や寄贈物資が多い日には無料のお弁当を60食程度配布。昨年度は100食を3回、130食を1回、60食程度を臨時休校中毎日実施。</p> <p>プログラミング教室を令和元年度から実施。</p> <p>テキスト代などの実費以外はすべて無料。</p>

入力数 (1) 197 字 (2) 198 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題 (800字以内)
<p>コロナ禍により、様々な家庭に影響が出ており行政で行っている支援より早く必要な方に支援が届くことが必要だと昨年度の活動を通して実感しています。また食糧を扱う上で、必要な事は柔軟かつ迅速な対応をすることです。</p> <p>また、行政の書類上では書けないような事情を抱えている方達もいます。</p> <p>経済的に不安定になったことや自粛生活で家庭内不和が生じやすくなっている家庭、通常の経済活動を想定した返済金の滞り、生活費の増加。大変な影響です。また、沖縄に多い多子家庭ではコロナによる収入減が家庭にゆっくりと確実に生活を苦しめています。ただ、現状では一人親家庭への支援は行政で見つけることが出来るのですが、多子家庭への支援は探すことが難しくなっています。生活保護を受けていない世帯は行政の手が届かないというのが現状だと感じています。生活保護を受ける手前が一番辛い時期であり、当事者の方々も一生涯命踏ん張っている所です。また、家庭内不和のため離婚を前提に別居中の方や急な失業など支援が必要な方の様々な理由があります。</p> <p>また、食生活以外でも学習支援の要望がこれまでと違い、中学生以上からの要望が増えています。通常と違う学習スピードにおいて行かれてしまった子が増えていると実感しています。</p> <p>緊急事態だからこそ迅速に柔軟な支援が必要になっています。</p>

入力数 564 字

### III.事業内容

<p><b>(1)事業の概要</b></p> <p>コロナの影響で困窮している家庭、ひとり親家庭、多子家庭の方たちに食料品を受け渡す。</p> <p>沖縄県ランチサポートとオリオンペーカリーの協力により毎週月曜日と金曜日は個包装のパンの配布ならびに寄贈された食料品の配布。小中学校の給食が無い登校日に無料のお弁当配布。夏休み中の無料のお弁当配布を行う。</p> <p>昨年度実施した結果、食糧受取希望者と無料のお弁当受取希望者が異なるニーズを持っている場合がある。特に無料のお弁当希望の家庭の中には、日常的に食事の回数が少ないことがあり児童にとって必要である。対して、食糧の受け取り希望の家庭は経済的困窮が見られる。よってどちらの活動も必要である。</p>
--

入力数 284 字

<p><b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b></p> <p>県内の子供の居場所事業所の繋がりを強化し、県内の子供の居場所の活動の基盤強化をする。県内の様々なサポートの情報を共有し、助け合える状態を作る。</p>
--

入力数 72 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の居場所への冷凍庫・冷蔵庫の貸与</li> <li>子供の居場所への台車の貸与</li> <li>→子供の居場所の充足</li> <li>当事業所の冷蔵冷凍設備の強化</li> <li>当事業所での食品補完体制の強化</li> <li>→ハブ拠点としての食品保管能力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の居場所 5か所以上への冷凍冷蔵設備や保管棚の貸与</li> <li>当事業所 冷蔵冷凍設備購入</li> <li>食品庫購入 食品保管部屋を設定</li> <li>ハブ拠点として沖縄県内の他居場所へ食品の配達（10か所以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月までに30か所前後の居場所を訪問し、現状を把握したうえで支援方法を各事業所と相談</li> <li>食品が配布されたときに情報をお渡しできるようにグループラインを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵庫、冷凍庫合わせて5台貸与</li> <li>居場所連携20か所</li> <li>食糧配布40回以上</li> <li>食料受け取り50回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷凍冷蔵庫2021年8月連携</li> <li>2021年9月配布</li> <li>2022年2月受け取り</li> <li>2022年2月</li> </ul>
<b>(4)活動</b>			<b>時期</b>	
・居場所の訪問 希望調査			2021年6月～2021年8月	
・食糧の受け取り ランチサポート			2021年6月～2022年2月	
・食糧の配布 居場所			2021年7月～2022年2月	
・冷蔵庫・冷凍庫、食料棚、台車などの貸与			2021年7月～2021年9月	
・くじら寺子屋 冷蔵庫・冷凍庫、食料棚、台車などの購入			2021年7月～2021年9月	
・無料のお弁当配布			2021年7月～2022年8月 2022年12月 (不定期)	
・食料品配布			2021年6月～2022年2月 月2回以上	
・情報公開 HPの作成 SNSへの発信			2021年6月～ 継続して活動	

### IV.事業実施体制

<b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b>	<p>(代表) 各団体との連絡 広報 物資運搬作業</p> <p>(常勤スタッフ) 食品管理 清掃消毒作業 衛生管理</p> <p>(常勤スタッフ) 現場管理</p> <p>学生スタッフ 食糧配布作業当日スタッフとして (1日3名4時間)</p>
<b>(2)他団体との連携体制</b>	<p>沖縄市社会福祉協議会・那覇市社会福祉協議会・沖縄県社会福祉協議会と企業団体からの食糧寄贈情報の共有・受け取り・他団体への配布作業</p> <p>沖縄県子ども未来課 子どもの居場所ネットワークで支援情報の共有 (沖縄県内の子どもの居場所のネットワーク)</p> <p>ランチサポートおきなわとの連携 (企業からの寄贈品を子どもの居場所へ配布している団体 食料品の中間受け渡し場所としての役割)</p> <p>女性を元気にする会 (SNSを通して県内の支援を必要な方へ支援をしている団体) との連携 (中北部への配布作業の連携) ※全ての団体と連携経験有</p>
<b>(3)想定されるリスクと管理体制</b>	<p>入り口で検温・消毒、マスクの着用は必ずしています。スタッフの中に准看護師資格所有者がいるので、消毒作業を管理してもらっています。</p> <p>保健所の許可を受けた食品衛生管理協会会員であり食堂許可を取っています。食品衛生協会の共済に加入しています。</p> <p>換気の為、換気扇は常に付けており (建物が元焼肉居酒屋の為換気扇が各部屋に設置) 入り口と勝手口、窓も開け放しています。</p>